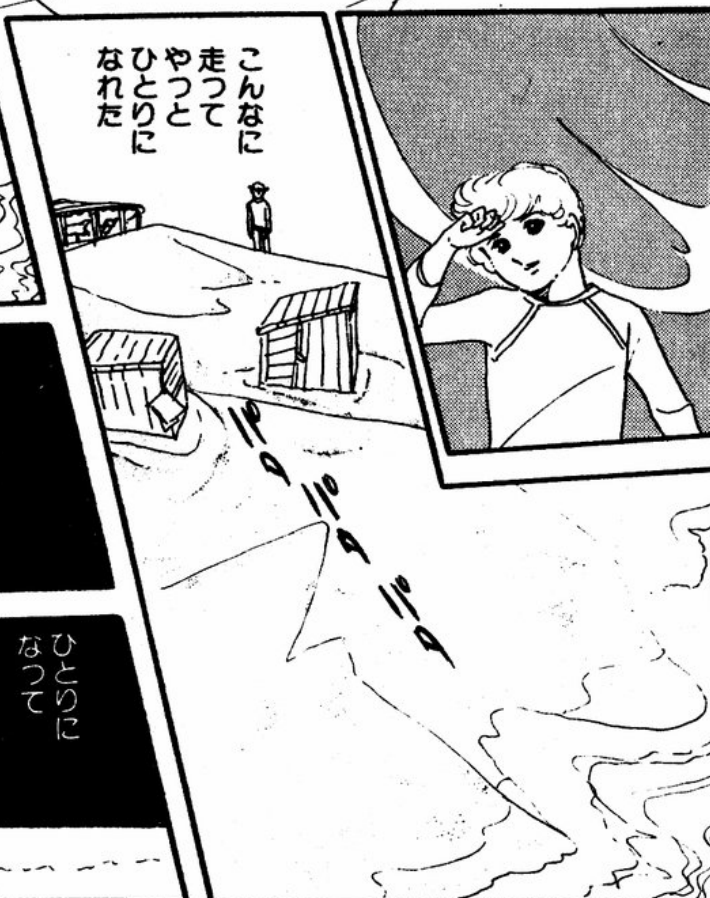
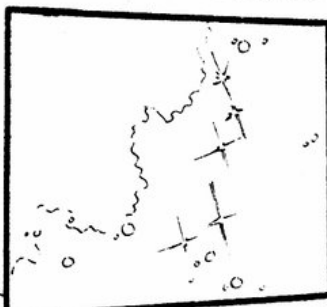
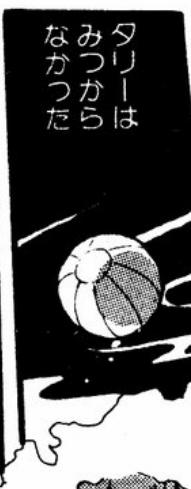
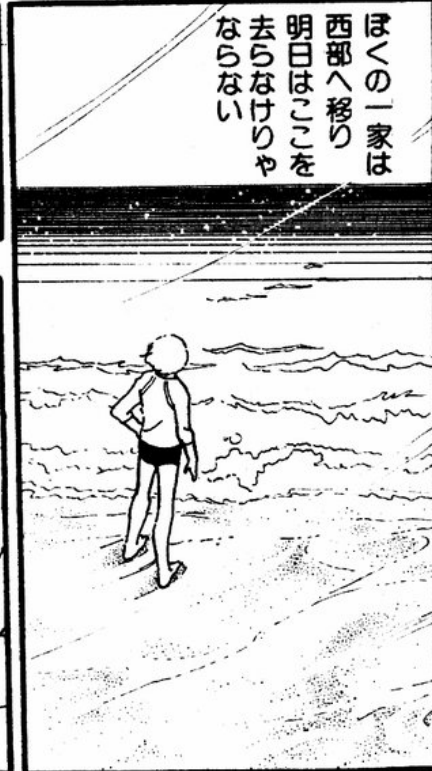
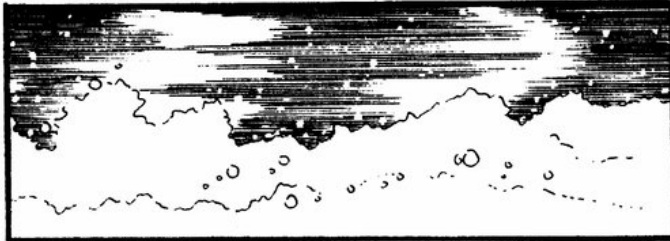
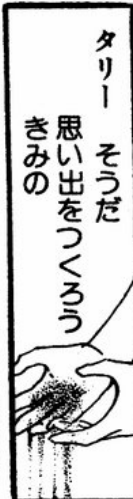
みずうみ

さあ
からだを
かわかすのよ
フワ
セーターを
着なさい
ハロルド
まって
鳥肌が立つの
みてるの
ハロルド!
ザ
ザ
ザ
ザ
ザ
もう夏も
すっかり終わりね
…ママ・マ
…ママぼく
このなぎさを
かけだして
みたくなった
すぐ
もどって
くるのよ
明日は
西部へ
帰るんだから
水ぎわへは
いかないでね!
ザザ
だれも
いなくなった
浜辺
ーママの影が
小さく
遠ざかる

なぎさは九月
風がぼくを
もちあげる
明日は帰るのだ
これはなごりの
最後の日
こんなに
走って
やっと
ひとりに
なれた
パタ パタ パタ
おとなたちが
いつも
こどものことを
ああしろ
こうしろと
世話をやくから
――だから
ひとりに
なって
やっと
呼びかける
ことができる

ザザ
ザザ
タリー…!
タリー!
タリー!
タリー!
もう二度と教室には現われない
もう二度と歩道でボール遊びをすることもない。
あの子金髪この五月にはいっしょにおよいだ
タリー!
おおおおい
おおおおおおい

よく笑う
彼女はどこに
いったのだろう
キャーアアア
アアー！
タリー
タリー！
どこなの
監視人は
水に何度ももぐり
タリーをさがした
タリーは
みつから
なかつた
そうして
夏がすぎた
タリー帰っておいで
タリー…帰っておいで
タリー！
帰っておいで！
ぼくはまだ12だつたが
彼女への恋を知つていた
タリー！
みずうみ
みずうみ
タリーを
かえせ
……！

いつも新学期には
彼女の教科書を
もってあげた
ものなのに
秋がきても
タリーはいない
ぼくの一家は
西部へ移り
明日はここを
去らなけりゃ
ならない
タリー　そうだ
思い出をつくろう
きみの
砂の城
いくつもいくつも
いっしょに
つくったね
タリー
ぼくの声が聞こえたら
帰っておいで!
帰ってきて…
……このあとの
半分をつくって
おくれ

つぎの日は
出発した
汽車は
あらゆる記憶を
遠ざける
消えてゆく
なにもかも
地平線の
かなたへ

歳月が
すぎてゆく
一切を
思い出として
中学から
高校生活
東部のことは
忘れ
大学へ
サクラメントで
若い女性と
知りあい
結婚した

あらあなたは東部育ちなの？それどんなところ？
まあいってみたいわ
新婚旅行がおくれてるから
そこに決めましょうよ
ねえハロルド
いいよマーガレット
汽車は
汽車はたちまちにして遠い昔に残しておいたもののところへ引きもどす
記憶は逆行する
レイクブラフだ！
レイクブラフ！
ガタンガタンガタンガタン

反響するもの
過ぎ去った日々のひびきがきこえる
なつかしく
二週間滞在し楽しくすごしたマーガレットは美しくぼくは彼女を愛していた
すくなくとも愛していると思った
最後の日に浜辺へきてよかったわ
明日は西部へ帰るのね もう夏も終わりだし
ママ!?

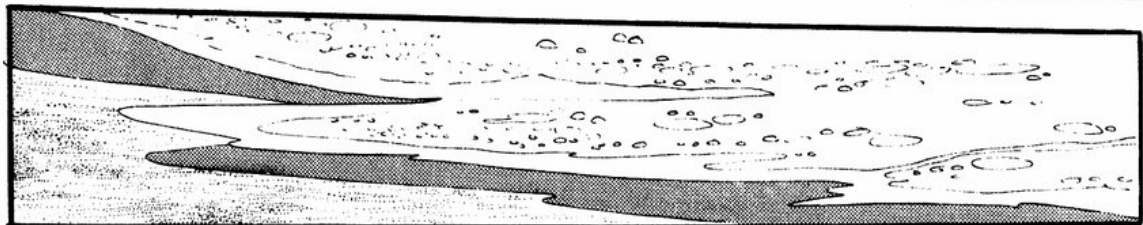
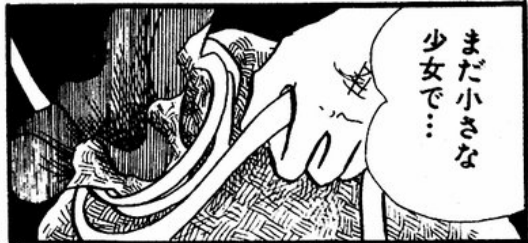
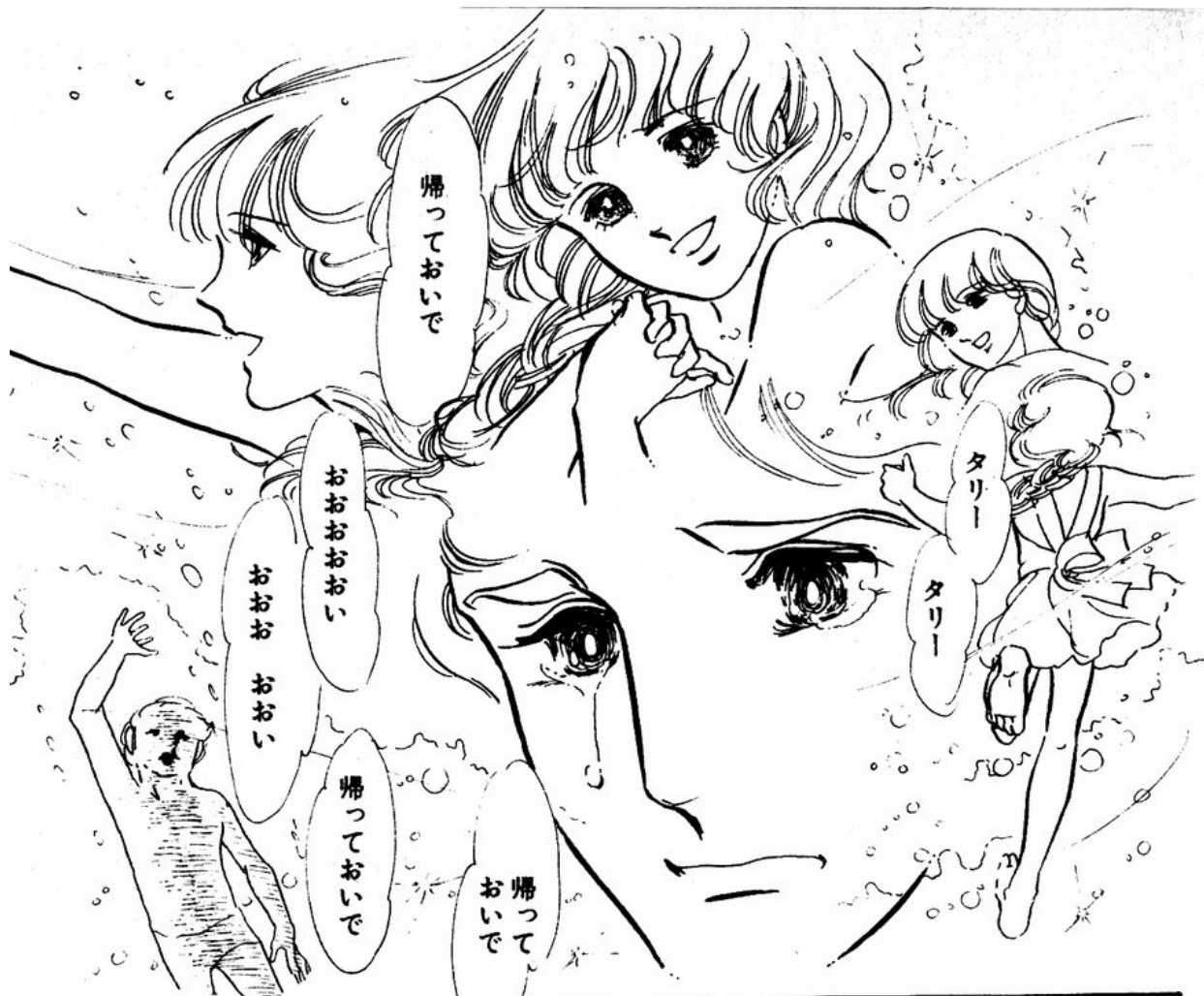
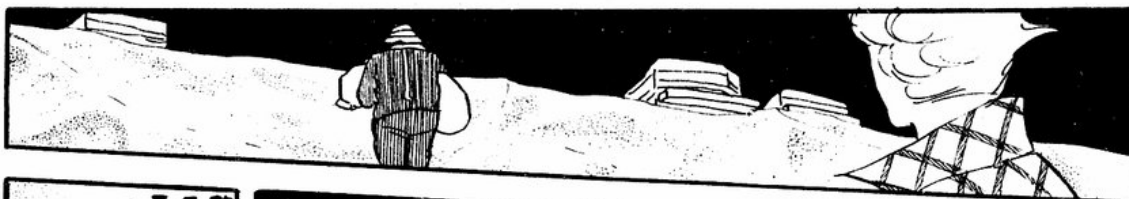
風が　まっていたよ
まっていたよ　と歌う
何かが
ひそやかに
訪れる
けはいがする

ここにいてくれ
マーガレット
え？
なあに？
なんですか　それ？

かわったものですよ
パチャ
…かわったものです
…長年監視人をやってますがこんなものははじめてみました
死んでからもうずいぶん長いことたってるんです
…ながいこと
十年間ですよ
今年は子どもの溺死はひとりもない
1933年からこっち12人子どもが溺れ死にましたどれもわりとすぐに発見されました
わたしの記憶では例外は一件だけです
これが…それですが
なぜそんなに長い間水の中にいたんでしょうね

あけない
ほうが…
……
ザザ
はやくあけてください…!
あけてください
まだ小さな
少女で…
ザザ
ザザ

タリー
タリー
帰っておいで
おおおおおい
おおお　おおい
帰っておいで
帰って
おいで
どこで彼女を
みつけましたか
このさきの
水ぎわのところで
浅瀬の…
あそこにいたんです
長い間
帰って
おいで
ほんとです
長い間
信じられないが
本当なんです
帰っておいで
おいで
おいで
タリー

ザ
砂の城……
彼女が半分
ぼくが半分

永遠に
幼いタリー
永遠に
かわらない
タリー
ぼくもまた
永遠に
彼女を愛する
波が消す
タリーの足音
砂の城
くりかえし
くりかえし
おしよせるが
いい
おおい

おおおおい
ぼくは永遠に
彼女を愛する
おおおおおおい
タリー
永遠に
彼女を愛する
おおおおい
浜へもどると
見知らぬ
女性が
待って
いた
マーガレットという名の
見たこともない女性が──